

## 編集者のことば

本号は、本研究所のプロジェクト研究である「大都市地域の地域情報と空間システムに関する計画論的研究」の一環としてまとめられた論文5篇を中心に特集号「大都市地域の空間形成と居住システム」を組み、併せて、文部省派遣研究員の投稿論文1篇から構成した。

石川幹子「緑地計画と成長管理」は、都市の成長管理計画の系譜を緑地計画の視点から捉え、その歴史の変遷をパークシステム、田園都市論、リージョナルプランニングおよびグリーンベルトの4つの類型を中心に考察し、その意義と動向を明らかにしたものである。

大江守之「コーホートから見た東京圏内の居住構造」は、東京圏において、住宅市街地形成が行われた中心的な時期に住宅取得年齢層の世帯が卓越して流入し、定住化し、それらが加齢しつつも常に卓越的な状態を維持するという仮説のもと、既成市街地および近郊整備地帯内区市町村における人口増加率ピーク期間別の年齢別人口構成の変化を分析し、年齢構造による地域別の特徴を明らかにしたものである。

矢野桂司「1980年代後半の東京大都市圏における都市内部人口移動」は、1980年代後半にみられた東京大都市圏内部の人口移動パターンの実態を国勢調査報告の非収録データにもとづいて明らかにするとともに、人口移動パターンと通勤流動パターンの関係を分析したものである。その結果にもとづき首都圏内部における居住地移動においては、就業者の就業先がその移転先に大きな影響を与えていると指摘している。

荒井良雄「住民の生活活動と都市空間」は、1988年から90年にかけての長野県下諏訪町、愛知県日進町および埼玉県川越市の3地域で収集した生活活動調査データの分析をもとに、「人々の日常生活の営みである諸活動がなされる空間的範囲」としての「生活活動空間」の実態から、「中間スケール」の計画論構築の必要性など、計画論・政策論的論点を整理して提示したものである。

中林一樹ほか「東京都における1994年用途地域制改定の実態と課題」は、1992年の都市計画法および建築基準法の改正に伴い、1994年度を中心に東京都内の各区市町で行われた新用途地域見直し原案策定作業の実態調査の分析結果をとりまとめたものである。とくに、用途地域の原則移行と原則外移行の比率に注目して実態分析したほか、各区市町村の見直し方針やこれと他の要因との関連性について考察するとともに、原則外移行と自治体の対応をクロス集計分析により明らかにしている。

さいごに、カローラ・ハイン「ヨーロッパ統合と計画の課題」は、欧州連合（EU）の中枢機関の立地問題、すなわち首都に関する様々な構想とその計画論争を整理するとともに、地方圏に根ざしたヨーロッパの再組織をめぐる動きを紹介し、都市と地方圏のネットワークの創造という視点から、EUの新しい首都の可能性および在り方を考察している。

1996年 9月

福岡峻治・中林一樹